

日獨協定締結ノ件

ヲ議題ニ供ス第一讀會ヲ開キ朗讀ヲ省略シ  
テ直ニ審査委員長ノ報告ヲ求ム

報告員(荒井) 今回御諮詢ノ日獨協定締結ノ件

ニ關シテハ本官等審査委員タルノ命ヲ受ケ

本月十三日及十八日委員會ヲ開キ事案ノ特

ニ關要ナルヲ念ヒテ具ニ國務大臣及關係諸

官ノ辯明ヲ聽キ努メテ縝密ニ之ガ查覈ヲ遂

ゲタリ

當局大臣ノ説明ニ依レバ近時ソヴイエト聯

邦ハ第一次及第二次ノ五箇年計畫ニ依リ銳

意國內ノ建設ヲ進ムルト共ニ國防ノ充實ヲ

行ヒ殊ニ極東ニ於テハ異常ノ力ヲ注ギテ尙

大ナル軍備ヲ施設シ曩ニ歐洲ニ於ケル隣接

諸國トノ間ニ不侵略條約又ハ侵略國定義條

約ノ如キ特殊ノ條約ヲ妥結シ次テ國際聯盟

ニ加入シ客年佛國及チエツコスロヴァキア

國トノ間ニ相互援助條約ヲ締結シ以テ漸次

歐洲方面ニ於ケル其ノ國際的地步ヲ鞏固ナ

ラシメタルト相俟キテ東亞方面ニ於ケル其

ノ壓力ヲ著シク加重シツツアリ而シテソ國  
ト表裏不可分ノ關係ニ在ル共產「インターナ  
シヨナル」所謂「ゴミンテル」ハ世界各方面ニ  
向ツテ極力赤化工作ノ歩武ヲ進メントシ近  
年其ノ赤化工作ノ主目標ヲ歐洲ヨリ東亞ニ  
移シ其ノ侵寇ヲ特ニ外蒙古新疆及支那本部  
ノ方面ニ擴大シ昭和六年ニ於テハ江西省瑞  
金ニ中華「ソヴイエト」共和國中央政府ヲ樹立  
シ共產軍ノ總數約三十五萬人ヲ算スルニ至  
リシガ蔣介石ノ武力討伐ニ因リ昭和九年十

一月瑞金ハ陷落シ江西「ソヴイエト」區ハ拋棄  
セラレタルモ今尚陝西甘肅及四川ノ方面ニ  
共產軍ノ蟠居セルモノアルノミナラズ昭和  
十年ノ第七回世界大會以後「ゴミンテル」ハ  
中國共產黨ヲ通ジテ抗日人民戰線ノ結成ナ  
ル新戰術ニ依リ益々活潑ニ其ノ對支活動ヲ  
行ヒツツアリ又滿洲國ニ於テハ「ゴミンテル」  
シハ日滿兩國官憲ノ嚴重ナル警戒ニ拘ラズ  
中國共產黨滿洲省委員會ヲ指揮シテ各地ノ  
細胞組織ノ扶植及各種ノ兵匪ノ誘導ニ努ム

ルト共ニ各地ニ於ケル遊撃運動ニカヲ注ギ  
ツツアリテ現ニ赤色バルチザン隊ノ出沒ヲ  
隨所ニ見ゴミンテルンノ極東ニ於ケル暗躍  
ハ其ノ影響眞ニ輕視スベカラザルモノアリ  
最近「スペイン」國ノ所謂人民戰線運動ニ於ケ  
ル「ゴミンテルン」ノ活動ハ頗ル顯著ニシテ今  
次ノ同國動亂ノ真相ニ徵スルモ「ソ國」及「ゴミ  
ンテルン」ガ他國ノ内部機構ニ浸潤シテ巧ニ  
赤化工作ヲ施シ惹テ其ノ國內ノ安寧及國際  
間ノ平和ヲ攪亂スルノ太甚シキモノアルコ

トハ極メテ明瞭ニ實證セラルル所ナリ叙上  
ノ如キ極東方面ニ於ケル「ソ國」ノ武力的迫力  
及「ゴミンテルン」ノ赤化工作ノ増進ハ日滿兩  
國ノ安全ニ對スル直接ノ脅威タルト共ニ帝  
國ノ東亞政策ノ遂行ニ對シ容易ナラザル障  
碍ヲ成スモノナルガ故ニ之ガ對策ハ現下帝  
國ノ當面セル對外諸問題中最モ緊切重大ノ  
事案ナリト認メザルベカラザルニ由リ帝國  
政府ハ東亞ニ對スル「ソ國」ノ侵寇的企圖ノ挫  
折及「ゴミンテルン」ノ赤化進出ノ阻止ヲ以テ

對外政策ノ重點ト爲シ曩ニ對支交渉ノ三原則中ノ一項目トシテ支那國ヲシテ外來赤化勢力ノ脅威ヲ排除スル爲メ帝國ニ協力セシムルコトヲ掲ゲ其ノ他國防ノ充實ト相俟チテ適切ナル外交手段ニ依リ右政策ノ實現ヲ期スルノ方針ヲ確立シタリ然ルニ獨逸國ニ於テハ昭和八年ヒツトラー氏ヲ首領トスルナチス政權ノ確立以來峻烈ナル反共產主義的政策ヲ實行シ爲メニ其ノ對ソ關係ハ頓ニ惡化シタルニ加ヘテ前陳ノソ國ト佛國及于

エツコ國トノ間ニ於ケル相互援助條約ノ締結ニ因リ少カラザル反感ト不安トヲ惹起シタルニ前述ノゴミンテルン第七回世界大會ニ於テ特ニ日本國及獨逸國ヲ以テ敵ト爲シ之ニ對スル統一戰線ノ結成ヲ以テ全世界共產黨ノ任務トスル旨ヲ決議シタル事實アリ斯クテ獨逸國ハソ國及ゴミンテルンニ對スル關係ニ於テ概ネ帝國ト立場ヲ同ジクシ國防上竝ニ赤化對策上帝國ト協調スルヲ便トスルノ境地ニ在ルモノナリ仍テ帝國政府ハ

前述ノ對外方針ヲ實行スルノ第一歩トシテ  
 獨逸國トノ提携ヲ畫策シ本年春以來同國駐  
 劄帝國大使ヲシテ同國政府代表者トノ間ニ  
 交渉ヲ重ネシメ其ノ結果右提携ノ爲メ日獨  
 兩國間ニ特殊ノ協約ヲ成立セシムルノ議調  
 ヒテ茲ニ本件協定ノ妥結ヲ見ルニ到リシナ  
 リ  
 本件ノ日獨協定ハ共產インターナシヨナル  
 ニ對スルモノト其ノ附屬祕密協定トセルゾ  
 ヴィエト聯邦ニ對スルモノトノ二協定ニシ

テ各々附帶ノ文書アリ今其ノ要旨ヲ開陳ス  
 レバ次ノ如シ

第一 共產インターナシヨナルニ對スル協  
 定

本協定ハ共產インターナシヨナル(所謂ゴ  
 ミンテルン)ノ共產主義的破壞工作ニ對ス  
 ル防衛ノ爲メノ協力ヲ目的トスルモノニ  
 シテ締約國ハ「コミンテルン」ノ活動ニ關シ  
 相互ニ情報ヲ交換シ必要ナル防衛措置ヲ  
 協議シ且緊密ナル協力ニ依リテ該措置ヲ

達成スベキコトヲ約シ又締約國ハゴミン  
テルシノ破壊工作ニ因リテ國內ノ安寧ヲ  
脅サルル第三國ニ對シ本協定ノ趣旨ニ依  
ル防衛措置ヲ執リ又ハ本協定ニ參加セシ  
コトヲ共同シテ勸誘スベキコトヲ約シ本  
協定ハ日獨兩國語ノ本文ヲ以テ正文トシ  
兩國全權委員ノ署名ノ日ヨリ之ヲ實施シ  
五年間有效トシ締約國ハ此ノ期間ノ滿了  
前適當ノ時期ニ於テ爾後ノ兩國協力ノ態  
様ニ付了解ヲ遂グベキコトヲ定ムルモノ

ナリ

本協定ノ附屬議定書ニ於テハ兩國ノ當該  
官憲ハゴミンテルシノ活動ニ關スル情報  
ノ交換並ニゴミンテルシニ對スル啓發及  
防衛ノ措置ニ付緊密ニ協力シ且國內又ハ  
國外ニ於テ直接又ハ間接ニゴミンテルシ  
ノ勤務ニ服シ又ハ其ノ破壊工作ヲ助長ス  
ル者ニ對シ現行法ノ範圍内ニ<sup>英テ</sup>嚴格ナル措  
置ヲ執ルベキコト及右兩國ノ當該官憲ノ  
協力ヲ容易ナラシムル爲メ常設委員會ヲ

設置シ之ヲシテ「コミンテルン」ノ破壊工作  
ヲ防遏スルニ必要ナル諸般ノ措置ヲ考究  
協議セシムベキコトヲ定ム

第二 共產「インターナショナル」ナルニ對スル協  
定ノ秘密附屬協定

本協定ハ「ソヴイエト」聯邦ノ武力ヲ以テス  
ル壓迫ニ對シ日獨兩國ノ共通ノ利益ヲ擁  
護スルコトヲ目的トスルモノニシテ締約  
國ノ一方ガ「ソ國」ヨリ挑發ニ因ラズシテ攻  
撃又ハ攻撃ノ脅威ヲ受クル場合ニ於テハ

他ノ一方ハ「ソ國」ノ地位ニ付負擔ヲ輕カラ  
シムルガ如キ效果ヲ生ズベキ一切ノ措置  
ヲ講ズルコトナク締約國ハ其ノ共通ノ利  
益ヲ擁護スル爲メ執ルベキ措置ニ付直ニ  
協議スベキコトヲ約シ又締約國ハ本協定  
ノ存續中相互ノ同意アルニ非ザレバ「ソ國」  
トノ間ニ本協定ノ精神ト兩立セザル一切  
ノ政治的條約ヲ締結セザルベキコトヲ約  
シ本協定ハ日獨兩國語ノ本文ヲ以テ正文  
トシ前述第一ノ協定ト同時ニ之ヲ實施シ

之ト同一ノ有効期間ヲ有スルコトヲ定ム  
ルモノナリ

本協定附録第一及第二ノ日獨兩國全權委  
員間ノ交換公文ハ本協定第二條ニ謂フ所  
ノ政治的條約中ニハ日ソ兩國間ノ漁業條  
約及利權條約日滿ソ三國間ノ國境問題ニ  
關スル條約並ニ日ソ兩國間ニ締結セラレ  
ベキ其ノ他ノ之ト同種ノ條約ヲ包含セザ  
ルコトヲ定ムルモノ同第三及第四ノ交換  
公文ハ獨ソ兩國間ニ存スル千九百二十二

年ノラパロ條約及千九百二十六年ノ中立  
條約ノ如キ政治的條約ノ條項ハ本協定ノ  
實施當時ノ事態ニ於テ客體ノ缺如セザル  
限り本協定ノ精神及本協定ヨリ生ズル獨  
逸國ノ義務ニ抵觸セザルモノト認ムル旨  
ノ同國政府ノ見解ヲ確認スルモノ同了解  
事項ハ兩國ハ本協定及附屬公文ヲ秘密ト  
スルコトニ一致シ本協定ノ内容ヲ第三國  
ニ通告スルコトが兩國ノ利益タリ得ベキ  
トキト雖其ノ通告ハ相互ノ同意ニ依リテ



ノミ之ヲ爲スベキコトヲ定ムルモノナリ  
本件協定ノ締結ノ趣旨其ノ他ニ關シ當局大  
臣ハ本官等ノ質問ニ應ヘテ辯明スル所アリ  
其ノ中主要ナルモノ次ノ如シ

(一) 本件協定ハ專ラ日獨兩國ニ於テ「コミンテ  
ル」ノ破壊工作ノ防衛及「ソヴイエト」聯邦  
ノ武力的壓迫ノ牽制ニ協力センコトヲ目  
的トスルモノニ外ナラザルガ故ニ帝國ガ  
本件協定ニ依リ此ノ目的ノ爲メニ獨逸國  
ト提携スルハ決シテ内政上ノ事項ニ關シ

全面的ニ同國ノ主義ニ賛同シテ之ト行動  
ヲ共ニスルコトヲ意味スルモノニ非ズ此  
ノ事ニ關シテハ苟クモ國ノ内外ニ疑惑誤  
解ナカラシムル爲メ本件協定ノ公表スベ  
キモノヲ公表スルニ際シ當局ニ於テ協定  
ノ趣旨ヲ宣明シ其ノ他適切ナル措置ヲ講  
ズルコトヲ怠ラザルベシ

(二) 本件協定ノ趣旨ハ前陳ノ如ク單ニ之ヲ以  
テ「コミンテルン」及「ソヴイエト」聯邦ニ備フ  
ルノ具ト爲スニ在ルガ故ニ其ノ成立以後

機  
密  
院

ニ在リテモ我方ヨリ進デゾ國ニ對スル關係ヲ惡化セシムベキ措置ニ出ヅルガ如キハ勉メテ之ヲ避クベキコト勿論ニシテ國境ノ劃定國境紛爭ノ處理其ノ他日ゾ兩國間ノ交渉事項ニ關シテハ兩國ノ國交ヲ適當ニ調整スル爲メ當局ニ於テ絶エズ最善ノ注意ヲ拂フベク更ニ帝國ト英米二國トノ間ノ友好關係殊ニ日英兩國間ノ親善關係ヲ保持増進スルコトニ付テモ亦當局ニ於テ常ニ最大ノ努力ヲ致スベキコトヲ期

ス

(三)本件協定ノ成立ガ日支兩國間現下ノ交渉ニ如何ナル影響ヲ及ボスベキカハ深ク省慮スベキ所ナルガ此ノ協定ノ締結ニ因リ帝國ノ地歩ニ一段ノ鞏固ヲ加フルノ事實ハ支那國ヲシテ其ノ態度ヲ決セシムルニ相當ノ效果アルベク從テ斯カル情勢ヲ利用シテ日支交渉ヲ我方ニ有利ニ展開セシムルノ見込ナキニ非ズ當局ハ其ノ間ニ處シテ遺策ナカラシコトヲ期スルモノナリ

四) 本件協定ノ成立ハ最近獨逸國ニ於テナチ  
ス政權確立ニ其ノ政情ノ一變シタルニ因  
由スルモノナルガ故ニ此ノ協定ノ實際ノ  
效果ハナチス政權ノ今後ノ消長ニ負フ所  
少カラザルコト勿論ナルガ獨逸國ハ歐洲  
戰爭後幾多ノ艱苦ヲ嘗メ歷代政府ガ國民  
一般ノ不滿ヲ買ヒ其ノ後ヲ承ケテ現出シ  
タル現政權ハ内政ニ外交ニ著々トシテ治  
績ヲ擧ゲ革命的行動ニ依ラズシテ其ノ獨  
特ノ主義ノ下ニ多數國民ノ信望ヲ繫クモ

ノナルガ故ニ少クトモ近キ將來ニ於テハ  
容易ニ崩壞スルコトナカルベク從テ向來  
本件協定ノ實效ヲ收ムルニ別段ノ支障ヲ  
感ズルコトナキヲ得ベシ

五) 前陳第二ノ協定ノ附錄第三及第四ノ公文  
ニ謂フ所ハ其ノ措辭稍々明瞭ナラザルノ  
嫌アルモ獨ゾ兩國間ニ現存スルラパロ條  
約及中立條約ノ條項中本件日獨協定ノ精  
神及此ノ協定ヨリ生ズル獨逸國ノ義務ニ  
抵觸スベキモノハ本件協定ノ實施當時ノ

機密

事態ニ照シ目的ノ消滅ニ因リ失效シタル  
モノト解スル旨ノ獨逸國政府ノ見解ヲ確  
認シタルモノニシテ此ノ事ハ本件協定ニ  
關スル交渉中獨逸國駐劄帝國大使が本使  
ハ本件協定ノ精神が獨逸國ノ「ソ國ニ對ス  
ル將來ノ政策ニ付唯一ノ基準ナリト」ノ確  
乎タル信念ヲ有スルモノナリトノ旨ヲ同  
國政府代表者ノ同意ヲ經テ帝國外務大臣  
ニ電致シタルニ徴スルモ疑ナキ所ナリ  
按ズルニ本件ノ日獨協定ハ日獨兩國ノ共通

利益ニ立脚シテ共產「インターナショナル」ノ  
破壊工作ニ對スル共同防衛ノ爲メ兩國協力  
シテ適宜ノ措置ヲ執ルベキコト竝ニ「ソヴイ  
エト」聯邦ノ武力的壓迫ニ對スル共同牽制ノ  
爲メ兩國間ニ緊密ナル連繫ヲ設クルコトヲ  
訂約セントスルモノニシテ帝國が獨逸國ト  
斯クノ如キ特殊ノ條約ヲ締結スルハ極メテ  
重要ナル意義ヲ有スルコト言フ俟タズ其ノ  
中外ニ及ボスベキ各般ノ影響ニ付テハ素ヨ  
リ深思熟慮ヲ要スルモノアリト雖帝國が共

産「インターナショナル」及「ソヴィエト」聯邦ノ  
侵寇壓迫ヲ防衛牽制スルノ目的ヲ以テ之ニ  
處スル一對策トシテ當面ノ國際情勢ヲ省察  
シ茲ニ本件協定ヲ締結シテ右ノ目的ノ爲メ  
獨逸國ト相提携スルノ舉ニ出ヅルハ寧ろ口機  
宜ヲ得タル措置ト爲スベク其ノ條項ハ附帶  
ノ文書トモ大體ニ於テ支障ノ慮ナキモノト  
認ム唯共產「インターナショナル」ノ目的ハ有  
ラユル手段ニ依ル現存國家ノ破壊及暴壓ニ  
在リテ其ノ各國內ニ於ケル活動ハ實ニ世界

全般ノ平和ヲ脅威スルモノナルコト前陳第  
一ノ協定前文ニ記載シタル所ノ如クナルガ  
故ニ之ガ活動ノ情報ヲ交換シ之ニ對シテ必  
要ナル防衛ノ措置ヲ講ズルニ付テモ亦世界  
列國ノ協力ニ依リテ十分ニ其ノ效果ヲ擧グ  
ルコトヲ期セザルベカラズ然レバ右協定成  
立ノ上ハ帝國政府ハ速ニ其ノ第二條ノ規定  
ニ從ヒ獨逸國政府ト共同シテ事情ノ許ス限  
リ成ルベク多數ノ第三國ニ對シ該協定ニ參  
加シ又ハ該協定ノ趣旨ニ依ル防衛措置ヲ執

相  
密  
院

機密院

ランコトヲ勸誘シ以テ所期ノ目的ヲ達成ス  
ルニ努力セラレシコト本官等ノ切ニ希望ス  
ル所ナリ仍テ審査委員會ニ於テハ本件ハ此  
ノ儘之ヲ可決セラレ然ルベキ旨此ノ希望事  
項ト共ニ全會一致ヲ以テ議決シタリ  
右審査ノ結果ヲ報告ス

二十八番 (窪巴) 本官ハ本件日獨協定ハ現下ノ

國際情勢ニ照シ適當ニシテ委員會ノ希望事項モ  
亦適當ナリト思惟シ之ニ賛意ヲ表スル者ナ  
ルモ之ニ關聯シ少シク政府當局ニ質問シタ

シ

今ヤ國際的ニ又各國國內的ニ「ファツシヨ」主  
義ト共產主義社會主義ノ提携ニ因ル所謂人  
民戰線トノ兩極端ガ對立抗爭シ恐ルベキ破  
綻ヲ生ゼントセリ我國ニ於テハ共產主義ニ  
感染スベカラザルハ勿論ナルガ之ト同時ニ  
「ファツシヨ」主義ニ陥ルコトモ亦大ニ之ヲ警  
戒セザルベカラズ何トナレバ「ファツシヨ」主義  
ハ夫レ自身ニ<sup>不自然</sup>不合理アリテ弊害アルノミナ  
ラズ之ガ反動トシテ共產主義ヲ激成スルノ

區 密 完

虞大ナルモノナレバナリ故ニ我國ハ常ニ所謂正ヲ履ミ中ヲ執リ中庸ノ道ヲ歩ミ以テ國論ヲ統一セザルベカラズ審査委員會ニ於ケル政府當局ノ辯明ニ依レバ政府ハ本協定ニ依リ敢テアアツシヨ<sub>レ</sub>主義ヲ肯定スルモノニ非ズ内外ノ誤解ヲ招カザル様其ノ趣旨ヲ宣明スベシトノコトナルガ其ハ洵ニ適當且必要ナルコトナリ我國ガ斯カル立場ニ立チテ共產勢力ノ東亞ニ於ケル進出ヲ防ギ共產思想ノ蔓延浸潤ヲ阻止スルニハ日支ノ國交ヲ

調整スルノ必要アルハ勿論本協定ノ外更ニ英國ト協カスルノ必要アリ日支ノ國交ヲ調整スルニ付テモ英國ノ理解ヲ必要トスベシ政府ノ所見如何又英國トノ協力ノ餘地又ハ可能性ナキヤ政府ノ所見伺ヒタシ獨リ前述ノ點ニ付テノミナラズ東洋ニ於ケル英國ノ立場ニ鑑ミ全面的ニ同國トノ親善ノ必要ナルハ勿論ニシテ進ンデ同國トノ間ニ何等カノ協定乃至諒解ニ達スルコトハ最モ必要ナリト思フ新聞紙ノ傳フル所ニ依レバ外務省

ハ此ノ如キ方針ヲ以テ駐英大使等ヲシテ盡  
カセシメ來レルガ如シ果シテ然ラバ其ノ結  
果ハ如何近キ將來ニ於テ協定乃至諒解成立  
ノ可能性アリヤ近時經濟貿易上ニ於テ英國  
ハ我國ト利害相及スル所多ク英國トノ協定  
又ハ諒解ハ至難ナルガ如クニモ考ヘラルル  
モ同國ハ元來理智ノ國ナルガ故ニ經濟上ノ  
問題ト思想上政治上ノ問題トハ區別シテ商  
議ヲ進メ得ルニ非ズヤ又或ハ英國ハ利己主  
義ニシテ之ト提携スルハ不利益ナリト考フ

ル者アルガ如シト雖同國ノ國民性ハ大體ニ  
於テ保守的ニシテアアツシヨニ偏セズ左翼  
ニ傾カズ政策ニ安定性アリ外交ニモ比較的  
恒久性アルガ如シ又極メテ常識的理智的ニ  
シテ且輿論ヲ重ンジ言論自由ノ國ナルヲ以  
テ同國ノ出所行動ハ理智ヲ以テ判斷シ易キ  
ガ如ク從テ之ニ對スル我國ノ方策モ亦立テ  
易ク確信ヲ以テ之ヲ立ツルコトヲ得ルニ非  
ザルカ是レ我國ガ英國ト最モ親善ニシ事宜  
ニ依リテハ同國ト提携スベキ一大理由ナリ



此ノ如ク英國トノ協定又ハ諒解ハ我國ノ爲  
メニ必要ナリト思惟スルモ同時ニ又本協定  
ハ現下ノ情勢ニ照シ必要已ムヲ得ザルモノ  
ト思料ス就テハ本件協定ハ何等カノ影響ヲ  
日英兩國ノ關係ニ及ボサザルカ英國トノ協  
定乃至諒解ヲ達スル上ニ不良ノ影響ヲ及ボ  
サザルカ政府ノ所見如何

十七番 (有田) 〆國ノ東亞ニ對スル赤化工作ノ  
防止ト武力進出ノ阻止トヲ以テ帝國對外政  
策ノ重點ト爲セルコトハ 既ニ 過日審査委員會ニ

於テ説明シタル通りナリ而シテ我が此ノ對  
外政策ヲ遂行センガ爲メニハ列國トノ親善  
關係ヲ保持増進スルコト最モ必要ナリ此ノ  
點ヨリ能フ限り日支ノ國交ヲ調整シ且英米  
トノ友好關係ヲ保持スルコトニ努メザルベ  
カラズ英國トノ關係ニ付テハ從來種々ノ意  
見アリテ英國トノ提携ヲ不便トスル者ナキ  
ニアラザルモ差當リ對〆政策ノ遂行上同國  
トノ親善關係ヲ増進スルノ必要アルコト勿  
論ナリ故ニ政府ニ於テハ曩ニ駐英大使ノ赴

任ニ際シ特ニ訓令ヲ與ヘテ英國政府ト折衝  
シ何等カノ協定ニ達スル様努力スベキ旨ヲ  
命ジ置キタリ然レドモ日英間ノ關係ニ付テ  
ハ種々利害ノ衝突アリ殊ニ經濟上ニ於テ然  
リトス從テ兩國間ノ感情ハ必ズシモ良好ナ  
ラズ支那ニ對スル關係ニ付テモ利害必ズシ  
モ一致セズ英國ノ内部ニ於テモ保守黨ニ在  
リテハ日英同盟ノ復活ヲサヘ希望スル者ア  
ルニ及シ労働黨及自由黨ニハ日本ノ行動ニ  
付甚ダ嫌焉タル者アリ又英國外務省方面ニ

於テモ日英ノ協力ニ付テハ難色ヲ示ス者ナ  
キニアラス我國ニ於テモ前述ノ如ク對英協  
調ノ必要ヲ主張スル者ト英國ニ對シ相當強  
キ反感ヲ有スル者トアリ政府ノ方針ハ固ヨ  
リ日英親善關係ヲ増進セントスルニ在リテ  
前陳ノ如ク駐英大使へ訓令シタル次第ナル  
モ兩國ノ政治的了解ニ達セシムル迄ニハ相  
當ノ困難アルコトヲ豫期セザルベカラズ今  
回ノ日獨協定ガ列國ニ對シテ如何ナル影響  
ヲ與フベキヤハ豫測ヲ許ササルモノアリ英

米兩國ニ對シテハ誤解ナカラシムル爲メ協  
定ノ公表前ニ於テ特ニ東京駐在ノ右兩國大  
使ニ其ノ趣意及内容ヲ説明シタリ併シ日獨  
協定ガ全部公表セラレ其ノ内容ガ十分明瞭  
ト爲ルニ非ザレバ之ニ對スル英國政府ノ完  
全ナル意向ハ明瞭ナラズ唯英國ニ於テモ赤  
化工作ノ害毒ノ恐ルベキコトガ西班牙ノ動  
亂ニ因リ深刻ニ認識セラレ居ルコトハ容易  
ニ判知シ得ル所ナリ日獨協定ハ專ラゴミン  
テルンノ赤化工作ノ共同防禦ヲ目的トスル

モノニシテ日獨兩國ガ之ニ依リ全面的ニ協  
調スルモノニ非ザルコトガ判明スレバサシ  
タル惡影響ナカルベシト考フ今ノ所英國ノ  
新聞ニハ之ヲ誤解セルガ如キ記事アルモ其  
ハ未ダ協定ノ真相ガ判明セザル爲メナルベ  
シ日英協調ガ直ニ可能ナリヤ否ヤ相當ノ疑  
問ナキニ非ザルモ政府トシテハ十分ニ努力  
スル方針ナリ  
二十六番 (有馬) 本官ハ此ノ日獨協定ハ將來ノ  
爲メ宜キヲ得タルモノト思考ス尤モ現下ノ

相 輔 院

日ソ關係ヨリ觀テ時機尚早ノ感アルモ政府ニ於テ既ニ本協定ヲ以テ對ソ外交ノ基調トスル國策ヲ決定セラレタル以上本官ハ政府ニ信賴シテ本御諮詢案ニ賛成セントスルモノナリ

本官ハ對ソ國交ニ就テ常ニ憂慮ヲ抱キツツアリ從テ本案ヲ賛成スルニ當リ一言所懷ヲ開陳スルヲ禁ズルコト能ハザルモノナリ凡ソ國際秘密條約ハ概ネ暴露ヲ免レザルコト歴史ノ示ス所ナリ從テ此ノ日獨秘密協定モ

恐ラクハ秘密ヲ保ツコト能ハズソ國ノ周密ナルスパイ網ニ依リテ探知セラルルニ至ルベシ而シテ同國ガ之ヲ探知シタル場合ニ於テ彼ハ如何ナル衝動ヲ感ズベキカ此ノ點ニ關シテハ二方面ヨリ之ヲ觀察シ得ベシ其一ハソ國ハ此ノ協定ニ依リ多少ノ壓力ヲ感ジ我國ニ對シ從來ノ暴慢ナル態度ヲ緩和スベシト為スモノナルモ本官ハ之ニ反シテ彼ハ聊カモ危惧ヲ感ズルコトナク反撥的ニ益々軍備ノ擴充ヲ圖リ赤化工作ニ努力シテ虎視眈々

時機ヲ窺フノ態度ニ出ヅルナラント思料ス  
翻テ獨ゾ兩國間ノ關係ヲ觀ルニ今日其ノ事  
態頗ル急迫シ國交斷絶ノ風評スラアルモ波  
蘭ヲ中間ニ挾ンデ相位置スル兩國ハ現下ノ  
客觀的情勢ヨリ考察シテ近ク戰爭ヲ惹起ス  
ベシトハ信ジ難シ之ニ反シテ我國及滿洲國  
對ゾ國ノ關係ハ頗ル重大性ヲ有シ蜿蜒數百  
里ニ亘ル國境ヲ接シ而モゾ國ハ兵約三十萬  
飛行機戰車各一千ヨリ成ル尨大ナル軍備ヲ  
之ニ配置シ就中其ノ飛行機ハ數時間ニシテ

能ク我が重要都市ヲ爆撃シ得ベキ姿勢ニ在  
ルコトハ何人モ知悉スル所ナリ而シテゾ軍  
ハ今日迄滿ゾ國境ニ於テ幾多ノ不法越境ヲ  
敢テシ種々ノ紛争ヲ惹起シタルモ彼等ハ未  
ダ日滿兩國ヲ敵トシテ戰ヲ挑ム目的ヲ以テ  
積極的行動ニ出デタルモノトハ思考セラレ  
ズ寧ロゾ國政府ハ北樺太石油試掘期限ノ延  
長及日ゾ漁業條約ノ改訂ニ關シ澁々ナガラ  
協調的態度ヲ示シ來レリ然ルニゾ國ガ此ノ  
日獨祕密協定ヲ探知シタル上ハ果シテ從來

榎  
密  
院

閣議  
密  
院

ノ如キ協調的態度ヲ持續スベキヤ恐ラクハ  
其ノ態度ヲ一變シテ對抗的ニ出デ來ルナラ  
ント本官ハ思考ス從テ將來幾多ノ緊迫セル  
問題ヲ惹起スベキコトヲ覺悟セザルベカラ  
ズ差當リ新漁業條約ノ調印拒否ノ如キ蓋シ  
其ノ表現ニ非ザルナキカガズロフスキハ  
國內手續終了ノ上ハ速ニ調印スベキ旨ヲ言  
明セリトノコトナルモ此ノ手續が果シテ何  
時終了スベキヤ疑念ナキヲ得ザルナリ聊カ  
輕率ノ言ナルモ若シゾ國政府が國內手續ニ

藉口シテ能ク迄調印ヲ肯ゼザル場合ニハ五  
箇月後ニハ自由出漁ノ決行カ將夕幾千萬圓  
ノ漁獲利得ノ拋棄カノ難問題ニ逢著スベシ  
東亞ノ安定カヲ以テ自任セル我國がポーツ  
マス條約ノ權利ノ行使ヲゾ國ニ承諾セシム  
ルコトヲ得ザルガ如キハ國ノ名譽ノ上ニ於  
テ許スベカラザルコトナリ一箇ノ漁業條約  
問題ニ於テスラ五箇月ノ後ニハ危機ヲ孕メ  
リ此ノ問題ノ外尚ゾ國ハ我國ヲ不利ニ陥ラ  
シムベキ幾多ノ打手ヲ有スルニ反シ我國ノ

區  
密  
完

彼ニ對スル打手ノ甚ダ少キハ頗ル遺憾ニ堪  
ヘザル所ナリ斯カル状態ヲ來セル原因ハ主  
トシテ彼我軍備ノ懸隔ノ餘リニ甚シキニ在  
リト謂ハザルベカラズ去ル十八日ノ審査委  
員會ニ於テ陸軍大臣ハ我が陸軍軍備ニ關シ  
目下最モ憂慮スベキ實狀ニ在ルコトヲ説明  
シ我が國防ノ充實セラルル迄ハソノ國トノ戰  
争ハ斷ジテ之ヲ避ケザルベカラズト言明セ  
ラレタルコトハ本官ヲシテ一層憂心ヲ深カ  
ラシメタルモノナリ明治三十七年日露國交

危機ニ瀕シタル際二月四日和戰ヲ決スベキ  
御前會議ヲ終リタル後畏レ多クモ明治天皇  
陛下ハ御内儀ニ於カセラレテ露國ト戦争ヲ  
セネバナラヌカドウモ致シ方ガナイ困ツタ  
コトデアルト仰セラレ御涙ヲ浮メ給ヘリト  
ノ御逸話が明治天皇ト軍事ナル書ニ記載セ  
ラレタリ此ノ事ハ其ノ著者渡邊幾治郎氏が  
明治天皇御傳記編纂官タリシ時女官新樹局  
ヨリ聞キタルコトナルヲ以テ事實ナリ而シ  
テ當時我國ハ英國ト同盟關係ニ在リ又米國

ノ厚キ支援アリ又我が兵力ニ關シテハ御前  
會議ニ於ケル陸海軍大臣奉答ノ大意ハ海軍  
ハ負ケズトハ信ズルモ勝ツコトモ困難ナリ  
陸軍モ先ヅ五分五分ナリ故ニ開戦ノ初ニ當  
リ機先ヲ制シ個々ニ彼ヲ撃破シテ終局ノ勝  
利ヲ得ルノ確信アリトノコトナリシナリ我  
ニ勝算アリタル場合ニ於テスラ斯クモ宸襟  
ヲ惱マシ給ヒシハ畏レナガラ祖宗ヨリ繼承  
シ給ヘル此ノ天壤無窮ノ國家ヲ傷ケザルベ  
シトノ大御心ヨリ出デタル叡慮ト拜察シ實

ニ感泣ニ堪ヘザル次第ナリ翻テ今日我國ガ  
獨逸ノ外一ノ與國ナク北ハソ國ノ大軍ニ對  
シ西ハ支那四億民ノ反抗ニ逢著セル現状ハ  
世界大戰前ノ獨國ヨリモ尚一層危險ノ状態  
ニ在ルモノニ非ズヤ本官ハ明治三十七年二  
月四日夜ノ事ニ思ヲ趨セ我が天壤無窮ノ國  
家ヲ護ランガ爲メニ上下一心急速ニ有ラエ  
ル手段ヲ執リテ此ノ危局ニ處セザルベカラ  
ズトノ感慨ニ堪ヘザルモノナリ日獨秘密協  
定ハ軍事同盟ニ非ザルガ故ニ日ソ戦争ニ當

區  
密  
完



リテハ固ヨリ多大ノ期待ヲ繫クルコトヲ得  
ズ故ニ今日ノ危局ニ際シテハ只自力ヲ以テ  
自ラヲ護ルノ外ナシト信ズ從テ本官ハ急速  
ニ我が陸軍軍備ヲ擴充強化スルコトヲ以テ  
焦眉ノ急ト爲ス夫ノ六箇年計畫ノ如キハ日  
暮レテ途遠キヲ痛感セシムルモノナリ仍テ  
速ニ之ガ措置ヲ執ラルルト共ニ外務當局ニ  
於テハ日獨協定ヲ適切ニ運用セラルルト同  
時ニ日ソ間ノ緊張ヲ緩和スルコトニ努力セ  
ラレ以テ我が國家ヲ和平昌隆ノ安キニ置カ

シコトヲ祈リテ止マズ本官ノ卑見ハ大ナル

杞憂ニ終ラバ國家ノ爲メ大慶ナリ

ニ十七番 (原) ソ國ガ漁業條約ノ調印ヲ延期シ

タルハ新聞ニ依レバ國內手續ノ未了ナルガ

爲メナリトアルモ此ハ全クノ口實ニシテソ

國政府ハ日獨間ニ何等カノ了解成立セリト

認メ日ソ間ノ親善關係ニ付考慮ヲ始メタル

結果ナルベシ日獨協定ハ官邊ニ於テハ今日

迄嚴秘ニ付セラレタルモ民間ニハ夙ニ流布

セラレ居タルガ故ニソ國ノ知ル所ト爲リタ

ルハ當然ナリ日獨協定ハ日ソ漁業條約ノ調  
印ヲ了シタル後ニ於テ公表スル豫定ナリト  
聞キシニ之ガ爲メ其ノ調印前ニ之ヲ公表ス  
ルノ已ムヲ得ザルニ到レルハ遺憾ナリ當局  
ニ於テハ現行漁業條約ノ有効期間中ニ新條  
約ニ調印セシメ得ル見込アリヤ若シ夫迄ニ  
調印出來ザルトキハ如何ナル措置ヲ執ル考  
ナリヤ

十七番 (有田) 先ヅ有馬顧問官ノ御發言ニ對シ

テ一言シ次ニ原顧問官ノ御質問ニ對シテ答

辯スベシ

有馬顧問官ヨリ御質問ノ今回ノ日獨協定ノ  
内容ガソ國ニ知レタル場合ソ國ハ之ニ反撥  
スベク爲メニ最惡ノ結果ヲ生ズルノ虞ナキ  
ヤノ點ニ付テハ政府ハ日獨協定締結後ト雖  
ソ國ニ對シテハ極力事端ノ發生ヲ避クル方  
針ナリ祕密約定ノ内容ハ兩國ノ意思如何ニ  
依リ相當ニ發展性アリ萬一日ソ間ニ戰爭勃  
發ノ危險ヲ生ズルトキハ更ニ本協定ノ規定  
以上ニ話合ヲ進ムル餘地アリ今後ニ於テハ

ソ國ハ日獨雙方ヲ敵トセザルベカラザルコ  
トヲ考フベク從テ日本ノ軍備十分ナラズト  
モ先方ヨリ事端ヲ設クルコトハ無カルベシ  
ト考フ  
次ニ原顧問官ノ御質問ニ答フベシ仰ノ如ク  
日獨協定ハ日ソ漁業條約ノ調印ヲ了スル迄  
發表セザル豫定ナリシモ其ノ調印前已ニ日  
獨協定成立ノ噂ガ或ル方面ヨリ傳ハリ日獨  
伊ノ三國提携說サヘ新聞ニ現ハレ日本ノ内  
部ニモ日獨協定ノ成立ヲ信ズル者アリ何時

新聞ニ登載セラルルヤモ知レザル模様ナリ  
シヲ以テ已ムナク之ニ關スル新聞記事掲載  
ヲ禁止シタリ然ルニ外國通信員ノ手ニ依リ  
日獨協定說ガ日本ヨリ米國ニ通信セラレ次  
デ歐洲ニ傳ハリタルモノノ如ク斯クシテ秘  
密ノ洩レタルハ遺憾トスル所ナリ其ノ結果  
去ル十六日ソ國大使外務省ニ來リタル際同  
大使ヨリ本官ニ對シ日獨間ニ何等カノ協定  
成立ノ噂アルガ事實ナリヤトノ質問アリタ  
ルニ由リ本官ハ全然之ヲ否定セズ日本ノ防

柑  
密  
院

共方針ヲ説示シ且「コミンテルン」第七回大會ニ於ケル決議ノ主旨ヲ述ベテ之ガ防禦ヲ完ウセシガ爲メニハ他國ト協力スルノ必要アリ目下某國トノ間ニ其ノ商議進行中ナルモ該協力ハ單ニ赤化工作ノ防止ニノミ關スルモノニシテ日ソ兩國間ノ親善關係ヲ進ムルニ何等支障アルモノニ非ズト述ベタルモ公表前ナレバ未ダ十分ニ其ノ内容ヲ發表スルコトヲ得ザリシナリソ國政府ニ於テモ防共協定ノ外別ニ何等カノ秘密協定アルベシト

推測セルコトハ想像ニ難カラズ日ソ漁業條約ハ本月二十日調印ノ豫定ナリシモソ國側ニ於テ遂ニ之ヲ延期スルニ到レリ其ノ理由ハ日獨間ニ反共ノ話合アルヲ聞キソ國政府部内ニ於テ即時調印ニ反對アルガ故ナリト云フ然レドモ本官ハ日獨協定ガ公表セラレ其ガ單ニ「コミンテルン」ニ對スルモノナルコト明ト爲ラバ聽テ調印スルニ到ルベシト考フ萬一調印ヲ肯ゼザルトキハ無條約トナリ自由出漁ヲ爲スノ外ナキニ到ルベキモソ國

ハ決シテ斯カルコトヲ望ミ居ラズト考フ同  
國ハ夙ニ日獨兩國間ニ何等カノ交渉アリト  
ノ風評ヲ聞込ミナガラ石油漁業孰レノ交渉  
ニ付テモ相當ノ誠意ヲ示シ又國境問題ヲモ  
討議シ居レリ今回ノ日獨協定ハソ國ノ全ク  
豫期セザルモノニ非ザルガ故ニ先方ヨリ進  
ンデ挑發的態度ニ出デ又ハ最後迄調印ヲ拒  
ムガ如キコトナカルベシト信ズ

議長(平沼) 他ニ御發言ナキ故第二讀會以下ヲ  
省略シテ直ニ採決スベシ本案賛成ノ各位ノ

起立ヲ請フ

(全員起立)

議長(平沼) 全會一致可決セラレタリ

本日ハ之ニテ閉會ス

聖上入御

(午後零時十分閉會)

議長男爵平沼騏一郎

書記官長村上恭一

書記官

堀江 季雄

武藤 盛雄

御批准案

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル  
大日本帝國天皇(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示  
ス

朕昭和六年十一月二十七日バンコックニ於テ  
帝國全權委員ガ關係各國全權委員ト共ニ署名  
シタル阿片吸食防止ニ關スル協定ヲ閱覽點檢  
シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元

年昭和

年 月 日

ニ於テ親ヲ名ヲ署シ

璽ヲ鈐セシム

御名 國璽

外務大臣

協  
定

協定

「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國、佛蘭西國、印度、大日本帝國、和蘭國、  
「ポルトガル」國竝ニ暹羅國ハ

其ノ極東ノ屬地及領域ニ於ケル千九百十二年一月二十三日ノ「ヘーグ」國際阿片條約第二章及千  
九百二十五年二月十一日ノ「ジュネーヴ」協定ノ適用ニ關スル狀況ヲ審査シ且吸食ノ爲ニスル阿片  
ノ使用ノ防止ヲ實現スルニハ更ニ如何ナル措置ヲ執リ得ベキヤヲ考究スルコトニ決シ  
之ガ爲左ノ如ク其ノ全權委員ヲ任命セリ

「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國

内務省常任次官補「サー、マルコム、デレヴィンニュ」

佛蘭西國

暹羅國駐劄特命全權公使「ロジ、モーグラ」

領事「ジャー、ブルゴア」

印度



「ビルマ」消費税委員「ジー、ビー、マーシャル」

### 大日本帝國

暹羅國駐劄特命全權公使矢田部保吉

拓務書記官棟居俊一

### 和蘭國

國際阿片問題ニ關スル和蘭國政府顧問「グエー、ヘー、ファン、グナットム」

蘭領印度阿片專賣局長、監察長官「セー、ペー、セー、エー、スタインメッツ」

蘭領印度財務局長「ハー、ホルトカンブ」

「ボルトガル」國

「マカオ」總督代理、民政部長「ドクトル、ジョアン、ペレイラ、デ、マガリアンセス」

在「マカオ」阿片專賣局長、經濟部監察官「ドクトル、ペドロ、ジョゼ、ローボ」

### 暹羅國

外務次官「フイア、スリヰサイナル、ヴァシア」

歳入局長官「グイヰグダーナジャガ、ジャヤンタ」殿下

右各全權委員ハ極東ニ於ケル現状ヲ調査シ且國際聯盟ニ依リ極東ニ於ケル阿片吸食ノ取締ヲ調査スル爲任命セラレタル委員會ノ結論及提言ヲ考究シ  
其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メ  
左ノ如ク「ジュネーヴ」協定ヲ補足スルコトヲ協定セリ

### 第一條

阿片ノ小賣及分配ハ政府ノ店舗即チ政府ニ依リ所有セラレ且管理セララル店舗ニ於テ又ハ地方的事情ガ政府ノ店舗ノ開設ヲ困難ナラシムル場合ニハ政府ニ依リ特ニ指名セラレ且一定ノ給與ヲ受クルノミニシテ賣上ニ對スル手数料ヲ受ケザル者ニ依リ政府ノ監視ノ下ニ管理セララル店舗ニ於テノミ行ハルベシ  
前項ノ規定ハ吸食者ノ特許及吸食許可量ノ制度ニシテ同等ノ若ハ一層有效ナル保障ヲ與フルモノガ實施中ナルトキ又ハ專賣局ニ依リ管理セララル販賣所ガ嚴ニ暫定的ノ措置トシテ存続スル間ハ之ヲ適用セザルコトヲ得

### 第二條

一 二十一歳未満ノ者ハ阿片ヲ吸食スルコト及吸食所ニ入ルコトヲ禁止セララルベシ

二 二十一歳未満ノ者ヲ誘引シテ阿片ヲ吸食セシメ、阿片吸食所ニ入ラシメ若ハ阿片ヲ取得セシメタル者又ハ二十一歳未満ノ者ノ右行爲ヲ幫助シタル者ハ罪ヲ犯スコトト爲ルベク右罪ニ對シテハ監禁刑ヲ含ム嚴重ナル刑罰ガ規定セラルベシ

### 第三條

締約國ハ既ニ一般ニ實施セラレ居ル阿片煙膏ノ現金ノミニ依ル販賣ノ慣行ニ法律上ノ根據ヲ與フルコトヲ約ス

### 第四條

阿片煙膏ノ製造ノ取締ヲ一層嚴重ナラシムル爲政府ノ獨占事業ハ同一國ノ他ノ領域ニ於ケル政府ノ獨占事業ノ工場ヨリ阿片煙膏ノ供給ヲ受クルコトヲ得ベシ

### 第五條

本協定ハ阿片煙膏ノ使用ガ一時的ニ許容セラルル締約國ノ極東ノ屬地又ハ領域(租借地又ハ保護領ヲ含ム)ニノミ適用セララル

締約國ハ批准ノ際ニ其ノ本協定ノ受諾ガ其ノ保護權ノミヲ行使スル地域ヲ包含セザルコトヲ宣言スルヲ得ベク又右ニ依リ除外セラレタル保護領ニ關シ國際聯盟事務總長ニ寄託セラルル加入ノ通

告ノ方法ニ依リ其ノ後ニ於テ加入スルコトヲ得事務總長ハ右加入ヲ直ニ他ノ一切ノ締約國ニ通告スベシ

### 第六條

本協定ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トシ批准セラルベシ

批准書ハ成ルベク速ニ國際聯盟事務總長ニ寄託セラルベシ

本協定ハ一切ノ締約國ニ依リ批准セラルル迄實施セラレザルベシ其ノ實施ノ日ハ國際聯盟事務總長ニ依ル最後ノ批准書ノ受領後九十日目タルベシ

本協定ハ其ノ實施ノ日ニ於テ國際聯盟事務總長ニ依リ登録セラルベシ

### 第七條

締約國ノ一ガ本協定ヲ廢棄セント欲スルトキハ右廢棄ハ國際聯盟事務總長ニ書面ヲ以テ通告セララルベシ事務總長ハ直ニ右通告ノ謄本ヲ他ノ一切ノ締約國ニ送付シ通告受領ノ日ヲ之ニ通知スベシ廢棄ハ之ヲ通告シタル締約國ニ關シテノミ且其ノ通告ガ事務總長ニ到達シタル後一年ニシテ效力ヲ生ズベシ

右證據トシテ前記全權委員ハ本協定ニ署名セリ

六

千九百三十一年十一月二十七日「バンコック」ニ於テ本書一通ヲ作成ス右ハ國際聯盟事務局ノ記録ニ寄託保存セラルベク其ノ認證原本ハ一切ノ締約國ニ送付セラルベシ

「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國

マルコム、デレヴィンニ

佛蘭西國

ロジニ、モーグラ

ジエー、ブルゴア

印度

ジエー、ビー、マーシヤル

印度代表委員ハ左ノ宣言ヲ附シテ本協定ニ署名スル旨述べタリ

「予ハ本協定ガ「シアン、ステート」トシテ知ラルル地域ニ現在適用ナク印度ノ關スル限

リ「シアン、ステート」ヲ除ク「ビルマ」州ニノミ適用アルモノナリトノ了解ノ下ニ本協定ニ署名スルコトヲ宣言ス」

大日本帝國

矢田部保吉

棟居俊一

和蘭國

ファン、ヴェラトウム

スタインメツ

ハー、ホルトカンブ

「ポルトガル」國

ジョアン、ペー、デ、マガリアンエス

ペドロ、ジョゼ、ローボ

暹羅國

フィア、スリヴィサール

七

グイワット  
暹羅國代表ハ會議ニ於テ爲シタル宣言ニ從ヒ第一條ニ對スル留保ヲ附シテ本協定ニ署名  
ス

**ACCORD**

---

**AGREEMENT**

## ACCORD

LE ROYAUME-UNI DE GRANDE-BRETAGNE ET D'IRLANDE DU NORD, LA FRANCE, L'INDE, LE JAPON, LES PAYS-BAS, LE PORTUGAL ET LE SIAM,

Ayant décidé d'examiner la situation, en ce qui concerne l'application, dans leurs possessions et territoires d'Extrême-Orient, du chapitre II de la Convention internationale de La Haye sur l'opium du 23 janvier 1912, et de l'Accord de Genève du 11 février 1925, et de rechercher quelles mesures supplémentaires peuvent être prises pour réaliser la suppression de l'usage de l'opium à fumer,

Ont nommé à cet effet, pour leurs plénipotentiaires:

*Le Royaume-Uni de Grande-Bretagne et d'Irlande du Nord:*

Sir Malcolm DELEIVINGNE, K.C.B., Adjoint permanent au Secrétaire d'Etat, Ministère de l'Intérieur.

*France:*

Son Excellence M. Roger MAUGRAS, Envoyé extraordinaire et Ministre plénipotentiaire près Sa Majesté le Roi de Siam.

M. G. BOURGOIS, Consul.

*Inde:*

M. J. B. MARSHALL, C.I.E., Commissaire de l'Accise de Birmanie.

*Japon:*

Son Excellence M. Y. YATABE, Envoyé extraordinaire et Ministre plénipotentiaire près Sa Majesté le Roi de Siam.

## AGREEMENT.

THE UNITED KINGDOM OF GREAT BRITAIN AND NORTHERN IRELAND; FRANCE, INDIA, JAPAN, THE NETHERLANDS, PORTUGAL AND SIAM,

Having decided to review the position in regard to the application in their Far-Eastern possessions and territories of Chapter II of the Hague International Opium Convention of January 23rd, 1912, and of the Geneva Agreement of February 11th, 1925, and to consider what further measures can be taken to bring about the suppression of the use of opium for smoking,

Have for that purpose appointed as their Plenipotentiaries:

*The United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland:*

Sir Malcolm DELEIVINGNE, K.C.B., Permanent Deputy Under-Secretary of State of the Home Office.

*France:*

His Excellency M. Roger MAUGRAS, Envoy Extraordinary and Minister Plenipotentiary accredited to His Majesty the King of Siam.

M. G. BOURGOIS, Consul.

*India:*

Mr. J. B. MARSHALL, C.I.E., Excise Commissioner of Burma.

*Japan:*

His Excellency M. Y. YATABE, Envoy Extraordinary and Minister Plenipotentiary accredited to His Majesty the King of Siam.

M. S. MUNESUYE, Secrétaire au Ministère des Affaires d'outre-mer.

*Pays-Bas:*

M. W. G. VAN WETTUM, Conseiller du Gouvernement néerlandais pour les Affaires internationales de l'opium.

M. C. Ph. C. E. STEINMETZ, Inspecteur en chef, Chef du Service de la régie de l'opium des Indes néerlandaises.

M. H. HOLTKAMP, Administrateur au Département des finances des Indes néerlandaises.

*Portugal:*

Le docteur João PEREIRA DE MAGALHÃES, Directeur des Services administratifs civils, chargé du Gouvernement de Macao.

Le docteur Pedro José LOBO, Inspecteur des Services économiques, Directeur du Monopole de l'opium, Macao.

*Siam:*

Phya SRIVISAR VACHA, Sous-Secrétaire d'Etat au Ministère des Affaires étrangères.

Son Altesse Sérénissime le Prince VIVADHANAJAGA JAYANTA, Directeur général du Service des recettes.

Lesquels, ayant examiné la situation actuelle en Extrême-Orient et étudié les conclusions et suggestions de la Commission chargée par la Société des Nations de procéder à une enquête sur le contrôle de l'opium à fumer en Extrême-Orient,

M. S. MUNESUYE, Secretary of the Ministry of Overseas Affairs.

*The Netherlands:*

M. W. G. VAN WETTUM, Adviser to the Netherlands Government in International Opium Questions.

M. C. Ph. C. E. STEINMETZ, Chief Inspector, Head of the Opium Régie of the Netherlands Indies.

M. H. HOLTKAMP, Administrator of the Department of Finance of the Netherlands Indies.

*Portugal:*

Dr. João PEREIRA DE MAGALHÃES, Director of Civil Administration Services, in charge of the Government of Macao.

Dr. Pedro José LOBO, Inspector of Economic Services, Superintendent of the Opium Monopoly, Macao.

*Siam:*

Phya SRIVISAR VACHA, Under-Secretary of State for Foreign Affairs.

His Serene Highness Prince VIVADHANAJAGA JAYANTA, Director-General of the Revenue Department.

Who, having examined the present situation in the Far East and having considered the conclusions and suggestions of the Commission appointed by the League of Nations to enquire into the control of opium-smoking in the Far East,

Ayant déposé leurs pouvoirs reconnus en bonne et due forme,

Sont convenus de compléter l'Accord de Genève ainsi que suit:

*Article premier.*

La vente au détail et la distribution de l'opium ne pourront s'effectuer que dans des magasins du gouvernement, c'est-à-dire des magasins possédés et gérés par le gouvernement; ou bien, dans le cas où les circonstances locales rendraient difficile l'établissement d'un tel magasin, dans des magasins gérés, sous le contrôle du gouvernement, par des personnes nommées à cet effet par le gouvernement et rétribuées uniquement au moyen d'une rémunération fixe, et non d'une commission sur les ventes.

La disposition ci-dessus pourra ne pas être appliquée dans le cas où il existerait un système de licence et de rationnement des fumeurs donnant des garanties équivalentes ou plus efficaces, ou dans le cas où subsisteraient, comme régime strictement temporaire, des magasins de vente exercés par la Régie.

*Article II.*

1. Il est interdit à toute personne âgée de moins de 21 ans de fumer l'opium ou de pénétrer dans une fumerie.

2. Quiconque incitera une personne de moins de 21 ans à fumer de l'opium, à pénétrer dans une fumerie ou à se

Having deposited their full powers found in good and due form,

Have agreed to supplement the Geneva Agreement as follows:

*Article I.*

The retail sale and distribution of opium shall take place only from Government shops—that is, shops owned and managed by the Government, or, where the local circumstances make the establishment of a Government shop difficult, from shops managed, under Government supervision, by persons appointed by the Government for that purpose and remunerated by a fixed payment only and not by a commission on sales.

The foregoing provision need not be applied if a system of licensing and rationing of smokers is in force, which affords equivalent or more effective guarantees, or during the continuance, as a strictly temporary measure, of selling-establishments controlled by the Monopoly.

*Article II.*

1. Persons under twenty-one years of age shall be prohibited from smoking opium and from entering any smoking-establishment.

2. Any person inducing a person under twenty-one years of age to smoke opium or to enter an opium-smoking establish-



procurer de l'opium, ou facilitera tout acte de ce genre de la part de cette personne, se rendra coupable d'un délit pour lequel il devra être prévu des pénalités sévères, pouvant aller jusqu'à la prison.

*Article III.*

Les Hautes Parties contractantes conviennent de donner une base légale à la pratique, déjà suivie d'une manière générale, de ne vendre l'opium préparé qu'au comptant.

*Article IV.*

En vue de rendre plus strict le contrôle de la fabrication de l'opium préparé, tout Monopole du gouvernement aura le droit de s'approvisionner en opium préparé à une manufacture du Monopole du gouvernement, située dans un autre territoire appartenant à la même Puissance.

*Article V.*

Le présent Accord ne s'applique qu'aux possessions et territoires d'Extrême-Orient des Hautes Parties contractantes, y compris les territoires cédés à bail ou protégés, dans lesquels l'usage de l'opium préparé est temporairement autorisé.

Lors de la ratification, chaque Haute Partie contractante pourra déclarer que son adhésion à l'Accord ne s'étend pas à un territoire quelconque sur lequel elle n'exerce qu'un protectorat, et elle pourra adhérer ultérieurement à l'Accord, pour tout protectorat ainsi exclu, au moyen d'une notification

ment or to procure opium, or facilitating any such act on the part of such a person, shall be guilty of an offence, for which severe penalties, including a term of imprisonment, shall be provided.

*Article III.*

The High Contracting Parties agree to give a legal basis to the practice, already generally in operation, of selling prepared opium for cash only.

*Article IV.*

For the purpose of rendering stricter the control of the manufacture of prepared opium, it shall be permissible for a Government Monopoly to be supplied with prepared opium from the factory of a Government Monopoly in another territory of the same Power.

*Article V.*

The present Agreement applies only to the Far-Eastern possessions or territories of the High Contracting Parties, including leased or protected territories, in which the use of prepared opium is temporarily authorised.

At the moment of ratification any High Contracting Party may declare that its acceptance of the Agreement does not include any territory over which it exercises only a protectorate; and may accede subsequently, in respect of any protectorate thus excluded, by means of a notification of ac-

d'adhésion déposée entre les mains du Secrétaire général de la Société des Nations, qui notifiera immédiatement ce dépôt à toutes les autres Hautes Parties contractantes.

*Article VI.*

Le présent Accord, dont les textes français et anglais font foi, sera sujet à ratification.

Les instruments de ratification seront déposés auprès du Secrétaire général de la Société des Nations le plus tôt qu'il sera possible.

L'Accord n'entrera en vigueur qu'après avoir été ratifié par toutes les Hautes Parties contractantes. La date de son entrée en vigueur sera le quatre-vingt-dixième jour après la réception, par le Secrétaire général de la Société des Nations, de la dernière ratification.

Le présent Accord sera enregistré par le Secrétaire général de la Société des Nations le jour de son entrée en vigueur.

*Article VII.*

Si l'une des Hautes Parties contractantes désire dénoncer le présent Accord, la dénonciation sera notifiée par écrit au Secrétaire général de la Société des Nations, qui communiquera immédiatement copie de la notification à toutes les autres Hautes Parties contractantes, en leur faisant savoir la date à laquelle il l'a reçue.

La dénonciation ne produira ses effets qu'à l'égard de la Haute Partie contractante qui l'aura notifiée et un an après que la notification en sera parvenue au Secrétaire général.

cession deposited with the Secretary-General of the League of Nations who shall forthwith notify the accession to all the other High Contracting Parties.

*Article VI.*

The present Agreement, of which the French and English texts are both authentic, shall be subject to ratification.

The instruments of ratification shall be deposited with the Secretary-General of the League of Nations as soon as possible.

The Agreement shall not come into force until it has been ratified by all the High Contracting Parties. The date of its coming into force shall be the ninetieth day after the receipt by the Secretary-General of the League of Nations of the last ratification.

The Agreement shall be registered by the Secretary-General of the League of Nations upon the day of its coming into force.

*Article VII.*

If one of the High Contracting Parties should wish to denounce the present Agreement, the denunciation shall be notified in writing to the Secretary-General of the League of Nations, who will immediately communicate a copy of the notification to all the other High Contracting Parties, informing them of the date on which it was received.

The denunciation shall take effect only as regards the High Contracting Party which notified it, and one year after the notification thereof has reached the Secretary-General.

EN FOI DE QUOI les plénipotentiaires susmentionnés ont signé le présent Accord.

IN FAITH WHEREOF the above-mentioned Plenipotentiaries have signed the present Agreement.

FAIT à Bangkok le vingt-sept novembre en un seul exemplaire qui sera déposé dans les archives du Secrétariat de la Société des Nations, et dont des copies certifiées conformes seront remises à toutes les Hautes Parties contractantes.

DONE at Bangkok the twenty-seventh day of November, one thousand nine hundred and thirty-one, in a single copy, which shall remain deposited in the archives of the Secretariat of the League of Nations, and certified true copies of which shall be delivered to all the High Contracting Parties.

ROYAUME-UNI DE GRANDE-BRETAGNE ET D'IRLANDE DU NORD

UNITED KINGDOM OF GREAT BRITAIN AND NORTHERN IRELAND.

Malcolm DELEIVINGNE

FRANCE

Roger MAUGRAS  
G. BOURGOIS

FRANCE

INDE

INDIA

J. B. MARSHALL.

The Delegate of India stated that he signed the Agreement subject to the following declaration:

"I declare that my signature to this Agreement is subject to the understanding that it does not apply at present to the territory known as the Shan States and that it applies, so far as India is concerned, only to the Province of Burma excluding the Shan States."

JAPON

JAPAN

Y. YATABE  
S. MUNESUYE

PAYS-BAS

THE NETHERLANDS

VAN WETTUM.  
STEINMETZ.  
H. HOLTkamp.

PORTUGAL

PORTUGAL

João P. DE MAGALHÃES  
Pedro José LOBO.

SIAM

SIAM

Phya SRIVISAR  
VIWAT.

In accordance with the declaration made at the Conference, the Siamese Delegation signs this Agreement with a reservation to Article I.

勅令第

號

關東州阿片令中左ノ通改正ス

第九條ノ二 二十一歳未滿ノ者ヲ強制  
シ又ハ誘引シテ阿片ヲ吸食セシメ又  
ハ第四條ノ規定ニ違反シテ阿片ヲ讓  
受ケ、所有シ若ハ所持セシメタル者ハ  
七年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰

金ニ處ス

二十一歳未滿ノ者ヲ幫助シテ阿片ヲ  
吸食セシメ又ハ第四條ノ規定ニ違反  
シテ阿片ヲ讓受ケ、所有シ若ハ所持セ  
シメタル者ハ四年以下ノ懲役又ハ三  
千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條中「前三條ヲ前四條ニ改ム

附則

本令施行ノ期日ハ滿洲國駐劄特命全權  
大使之ヲ定ム

共産「インターナショナル」ニ對スル協定

## 共產「インターナショナル」ニ對スル協定

大日本帝國政府及

獨逸國政府ハ

共產「インターナショナル」(所謂「コミンテルン」)ノ目的ガ其ノ執リ得ル有ラユル手段ニ依ル現存國家ノ破壊及暴壓ニ在ルコトヲ認メ

共產「インターナショナル」ノ諸國ノ國內關係ニ對スル干涉ヲ看過スルコトハ其ノ國內ノ安寧及社會ノ福祉ヲ危殆ナラシムルノミナラズ世界平和全般ヲ脅スモノナルコトヲ確信シ

共產主義的破壊ニ對スル防衛ノ爲協力センコトヲ欲シ左ノ通協定セリ

### 第一條

締約國ハ共產「インターナショナル」ノ活動ニ付相互ニ通報シ、必要ナル防衛措置ニ付協議シ且緊密ナル協力ニ依リ右ノ措置ヲ達成スルコトヲ約ス

### 第二條

締約國ハ共產「インターナショナル」ノ破壊工作ニ依リテ國內ノ安寧ヲ脅サルル第三國ニ對シ本



協定ノ趣旨ニ依ル防衛措置ヲ執リ又ハ本協定ニ參加セントコトヲ共同ニ勸誘スベシ

第三條

本協定ハ日本語及獨逸語ノ本文ヲ以テ正文トス本協定ハ署名ノ日ヨリ實施セラルベク且五年間效  
力ヲ有ス締約國ハ右期間滿了前適當ノ時期ニ於テ爾後ニ於ケル兩國協力ノ態様ニ付了解ヲ遂グベ  
シ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本協定ニ署名調印セリ

昭和 年 月 日即チ千九百 年 月 日「ベルリン」

ニ於テ本書ニ通テ作成ス

大日本帝國特命全權大使  
獨逸國特命全權大使

共產「インターナショナル」ニ對スル協定ノ附屬議定書

本日共產「インターナショナル」ニ對スル協定ニ署名スルニ當リ下名ノ全權委員ハ左ノ通協定セ

- (イ) 兩締約國ノ當該官憲ハ共產「インターナショナル」ノ活動ニ關スル情報ノ交換並ニ共產「イ  
ンターナショナル」ニ對スル啓發及防衛ノ措置ニ付緊密ニ協力スベシ
- (ロ) 兩締約國ノ當該官憲ハ國內又ハ國外ニ於テ直接又ハ間接ニ共產「インターナショナル」ノ勤  
務ニ服シ又ハ其ノ破壊工作ヲ助長スル者ニ對シ現行法ノ範圍内ニ於テ嚴格ナル措置ヲ執ルベシ
- (ハ) 前記(イ)ニ定メラレタル兩締約國ノ當該官憲ノ協力ヲ容易ナラシムル爲常設委員會設置セラ  
ルベシ共產「インターナショナル」ノ破壊工作防遏ノ爲必要ナル爾餘ノ防衛措置ハ右委員會ニ  
於テ考究且協議セラルベシ

昭和 年 月 日即チ千九百 年 月 日「ベルリン」

ニ於テ

大日本帝國特命全權大使  
獨逸國特命全權大使

四

ABKOMMEN GEGEN DIE KOMMUNISTISCHE INTERNATIONALE.

DIE REGIERUNG DES DEUTSCHEN REICHES  
UND  
DIE KAISERLICH-JAPANISCHE REGIERUNG

In der Erkenntnis, dass das Ziel der Kommunistischen Internationale, Komintern genannt, die Zersetzung und Vergewaltigung der bestehenden Staaten mit allen zu Gebote stehenden Mitteln ist,

In der Überzeugung, dass die Duldung einer Einmischung der Kommunistischen Internationale in die inneren Verhältnisse der Nationen nicht nur deren inneren Frieden und soziales Wohleben gefährdet, sondern auch den Weltfrieden überhaupt bedroht,

Sind in dem Wunsche, gemeinsam zur Abwehr gegen die kommunistische Zersetzung zusammenzuarbeiten, in folgendem übereingekommen :

Artikel I

Die Hohen Vertragschliessenden Staaten kommen überein, sich gegenseitig über die Tätigkeit der Kommunistischen Internationale zu unterrichten, über die notwendigen Abwehrmassnahmen zu beraten und diese in enger Zusammenarbeit durchzuführen.

Artikel II

Die Hohen Vertragschliessenden Staaten werden dritte Staaten,

deren innerer Friede durch die Zersetzungsarbeit der Kommunistischen Internationale bedroht wird, gemeinsam einladen, Abwehrmassnahmen im Geiste dieses Abkommens zu ergreifen oder an diesem Abkommen teilzunehmen.

### Artikel III

Für dieses Abkommen gelten sowohl der deutsche wie auch der japanische Text als Urschrift. Es tritt am Tage der Unterzeichnung in Kraft und gilt für die Dauer von fünf Jahren. Die Hohen Vertragschliessenden Staaten werden sich rechtzeitig vor Ablauf dieser Frist über die weitere Gestaltung ihrer Zusammenarbeit verständigen.

Zu Urkund dessen haben die Unterzeichneten, von ihren betreffenden Regierungen gut und richtig bevollmächtigt, dieses Abkommen unterzeichnet und mit ihren Siegeln versehen.

So geschehen in zweifacher Ausfertigung

zu Berlin, den ..... ten ..... 19 ,  
d. h. den ..... ten ..... des ..... ten Jahres der  
Showa-Periode.

Ausserordentlicher und Bevollmächtigter  
Botschafter des Deutschen Reiches

Kaiserlich-Japanischer Ausserordentlicher  
und Bevollmächtigter Botschafter

### ZUSATZPROTOKOLL ZUM ABKOMMEN GEGEN DIE KOMMUNISTISCHE INTERNATIONALE.

Anlässlich der heutigen Unterzeichnung des Abkommens gegen die Kommunistische Internationale sind die unterzeichneten Bevollmächtigten in folgendem übereingekommen :

a) Die zuständigen Behörden der beiden Hohen Vertragschliessenden Staaten werden in bezug auf den Nachrichtenaustausch über die Tätigkeit der Kommunistischen Internationale sowie auf die Aufklärungs- und Abwehrmassnahmen gegen die Kommunistische Internationale in enger Weise zusammenarbeiten.

b) Die zuständigen Behörden der beiden Hohen Vertragschliessenden Staaten werden im Rahmen der bestehenden Gesetze strenge Massnahmen gegen diejenigen ergreifen, die sich im Inland oder Ausland direkt oder indirekt im Dienste der Kommunistischen Internationale betätigen oder deren Zersetzungsarbeit Vorschub leisten.

c) Um die in a) festgelegte Zusammenarbeit der zuständigen Behörden der beiden Hohen Vertragschliessenden Staaten zu erleichtern, wird eine ständige Kommission errichtet werden. In dieser Kommission werden die weiteren zur Bekämpfung der Zersetzungsarbeit der Kommunistischen Internationale notwendigen Abwehrmassnahmen erwogen und beraten.

Berlin, den.....ten.....19 ,  
d. h. den ..... ten ..... des ..... ten Jahres der  
Showa-Periode.

Ausserordentlicher und Bevollmächtigter  
Botschafter des Deutschen Reiches

Kaiserlich-Japanischer Ausserordentlicher  
und Bevollmächtigter Botschafter